

「第23回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー」

- ◆講師◆ 齊藤 拓己 先生
日本原子力研究開発機構 原子力化学研究部門
先端基礎研究センター
バイオアクチノイド化学研究グループ
- ◆演題◆ 土壌中の放射性セシウムの化学形と
脱離ダイナミクス
- ◆日時◆ 平成26年11月28日(金)午後2時から(1時間程度)
- ◆場所◆ 図書館 視聴覚室 (3階)

講演内容:

福島第一原子力発電所事故によって大量の放射性核種が環境中に放出された。特に、比較的半減期の長い放射性セシウムは土壌を構成する粘土鉱物に強く取り込まれ、土壌中の滞在時間も長くなる。今後、未除染地域の利用制限や除染廃棄物の管理・処分を行っていく上で、放射性セシウムの土壌中の動態の変化や土壌からの脱離挙動を理解する必要がある。本研究では、逐次抽出とサイズ分画から汚染土壌中の放射性セシウムの化学形の分布を評価すると共に、得られた結果を安定セシウムと比較することで、同位体交換の点から、分布の経時変化の方向を議論した。また、長期間の脱離実験を行い脱離メカニズムを考察した。

参考文献

- 1) Saito et al. (2014) Geochemical and grain-size distribution of radioactive and stable cesium in Fukushima soils: implications for their long-term behavior. *Journal of Environmental Radioactivity*, v. 138, 11-18.
- 2) 中尾淳 2012. セシウムの土壌吸着と固定. 学術の動向10月号【特集1】放射線防除の土壌科学-森・田・畑から家庭菜園まで-, vol. 17, pp40-45, 日本学術会議.

多数の皆様のご来聴を歓迎いたします。

- ◆連絡先◆ 中尾 淳・矢内 純太(土壌化学研究室)
Atsushi NAKAO (Lab. Soil Chemistry)
E-mail: na_4_ka_triplochiton@kpu.ac.jp Phone: 075-703-5652
Room1106(1号館1階), Kyoto Prefectural University